

議員説明会 会議録

1 開催日時

令和6年1月31日（水曜日） 午前10時30分 ～ 午前10時56分

2 件名

公立保育園「亀ヶ森保育園」の閉園について

3 議事録

岩間総合政策部長

それでは、説明会を再開させていただきます。

2つ目の項目となります。公立保育所「亀ヶ森保育所」の閉園について 教育委員会教育部こども課から説明をさせていただきます。

佐藤教育長。

佐藤教育長

教育委員会でございます。公立保育所「亀ヶ森保育所」の閉園についてご説明申し上げます。

岩間総合政策部長

大川こども課長。

大川こども課長

こども課の大川です。それでは、私の方から、花巻市立亀ヶ森保育園の閉園という方針決定に至った経緯の詳細につきまして、資料に沿ってご説明をさせていただきます。着座にて説明させていただきます。

それでは、最初に資料の1ページ、中段をご覧くださいと思います。

花巻市では、保育園、幼稚園として持続していくことが可能な児童数の適正規模を示し、将来にわたってこの規模を満たすことが難しい場合は、統廃合という方法を取りながら、施設を適正に配置していくという考え方の指針として、「花巻市公立保育園・幼稚園の適正配置に関する基本指針」を令和3年3月に策定しております。

基本指針では、保育園を維持していくことが可能な1園あたりの最小の人数・規模を、4歳児及び5歳児の人数をそれぞれ8人、保育園全体の最小規模を、児童福祉法における保育所の最小人数を目安として、おおむね20人というふうにしております。

そして、将来にわたってこの最小規模を満たさないことが見込まれる場合に、保護者や地域関係者との懇談を行いながら協議を進め、合意を得た上で、施設の統廃合に向けた取り組みを進めていくこととしているものです。

市では、この基本指針に基づきまして、園児数の大きな減少が見込まれました亀ヶ森保育園の今後のあり方について、今年度5月より保護者との懇談を行ってきたところです。

続きまして、2ページをご覧ください。

大迫地域の保育施設の利用状況についてですけれども、こちらは、令和5年10月1日現在の大迫保育園と亀ヶ森保育園の定員数、そして実際の利用人数でございます。

塗りつぶしになっている上の段が定員数、下の段が利用人数となっております、大迫保育園は、利用定員90人に対し61人の利用、亀ヶ森保育園は利用定員30人に対し14人の利用となっております。

亀ヶ森保育園の利用人数のところを見ていただきたいのですが、現在の利用人数14人のうち年長の5歳児が8人となっております、この子どもたちが今年3月に卒園しますと、そちらにも書いております通り来年度は現在の半分以下の人数となることが見込まれ、しかも、現在の4歳児が0人ですので、来年度は年長児がいないというような状況になります。

続きまして、その下、3の表ですけれども、こちらは平成27年度以降の各年度の3月1日時点の利用児童数の推移を表しています。

亀ヶ森保育園は、これまでは大体15人前後で推移してきましたけれども、年長児の卒園により、来年度は半数以下になるということが見込まれます。

その下には、参考として大迫の地域別の出生者数を載せておりますけれども、やはりどの地域でも数年前と比較すると出生者数が減少しているというような状況がございます。

こういった状況もございまして、市としては、今後、亀ヶ森保育園を利用する子供が増えるということはなかなか難しく、かなりの極小規模になってしまうということが想定されましたことから、今年度に入りまして保護者の方へ現状の説明を行い、懇談を行ってきたところです。

続きまして、これまで行ってきた懇談会等の経緯についてですけれども、次の4の表をご覧くださいと思います。

保護者との懇談は全部で4回行いました。懇談会では、細かいところまで目が届くことですとか、それぞれの個性を生かして、アットホームな雰囲気の中で保育ができるなど、少人数での保育の良さというものは当然あるものの、その一方で、運動会ですとか、発表会などの行事を行うことが難しくなるということ、一定の規模の集団で得られる学び、例えばみんなで相談して物事を決めたりですとか、チームを組んで競い合ったりという経験が難しくなるということなど、子供の育ちに必要な環境について、様々、情報提供しながら話し合いを行ってきたところです。

また、大迫地域の保育施設の利用状況等を踏まえまして、亀ヶ森保育園のあり方についてどのようにお考えになるかということのを伺うために、第1回の懇談会終了後の6月に保護者へのアンケート調査を実施いたしました。

アンケートは、全世帯、全部で10世帯の利用ですけれども、すべての世帯から回答いただきまして、亀ヶ森保育園の存続を望むという回答が4世帯、大迫保育園との統合という回答が6世帯という結果でございました。

そのほかに、市への確認事項ですとか、保護者会としてのご意見などを話し合っていたため、保護者さんだけの話し合いの場を2回ほど設けていただきました。

保護者会の方からは、今年度末で閉園となった場合のスケジュールを知りたいというお話ですとか、それから、大迫保育園と交流する機会があればよいというようなご意見をいただきましたので、第3回の懇談会においていただいたご質問にお答えしながら、保護者

さんがもう少し具体的に考えることができるような情報提供を行っております。

また、保護者さんからご要望のあった大迫保育園との交流につきましては、9月に2回ほど実施したところです。

こういった形で懇談会を続けてきたところですが、11月1日の保護者会の話し合いの結果、保護者会として、子供たちが一定規模の集団の中で様々な活動ができる保育環境ということを第一に考えて、亀ヶ森保育園を令和5年度末で閉園し、大迫保育園との統合を進めてほしいということ、また、子供たちが新しい環境に早く馴染むことができるような方策を検討してほしいということ、そして、やはり長い歴史のある亀ヶ森保育園を締めくくる閉園式の実施をお願いしたいという結論が出されまして、11月16日付けでそういった意見書が市に提出されたところです。

この意見書の提出を受けまして、市では、閉園に関し、地域のご意見を伺うため、12月8日に亀ヶ森地域の方々を対象とした説明会を開催いたしました。

説明会では、市として、一定規模の集団の中で得られる学びなど子供の育ちに必要な保育・教育環境を確保することが重要であると考えていること、それから、これまでの経緯と保護者のご意向について説明いたしまして、亀ヶ森保育園を令和5年度末で閉園し、令和6年度より大迫保育園に統合することについて、地域の皆様方の同意を得たところです。

また、1月12日に開催された大迫地域協議会におきましても、亀ヶ森保育園の閉園という方針に至るまでの経緯について、同様にご説明をさせていただいたところです。

次に、4ページの5、閉園に向けた今後のスケジュールについてですけれども、この後、2月に花巻市教育委員への説明を経たのちに、花巻市議会3月定例会において、花巻市保育所設置条例の一部改正を提案する予定としております。

閉園式につきましては、卒園式と同日の3月23日に、「亀ヶ森保育園お別れの会」として執り行う予定としております。

最後に、6の保育交流についてですけれども、こちらは、亀ヶ森保育園の子供たちが少しでも早く大迫保育園に馴染むようにということだけではなく、集団の中でしか経験できない、人との関わりですとか、言葉での伝え合い、話し合いなどを経験することも大きな目的として行ったところです。

保護者の方々は、子供たちが大きな集団に馴染めるかということを心配しておられましたので、1月に実施した保育交流は亀ヶ森保育園の保護者さんが参観できるような形で行いまして、大迫保育園の子供たちと一緒に遊んだり、給食を食べたりして過ごす様子を保護者の方にご覧いただいたところです。

保育交流については、残すところあと1回となっておりますけれども、3月23日の閉園式の終了後は保護者のご協力をいただきながら、亀ヶ森保育園の保育士も一緒に大迫保育園で1日を過ごす形で慣らし保育を行うこととしておりまして、子供たちが1日でも早く大迫保育園で安心して楽しく過ごすことができるように努めてまいりたいというふうに考えております。

以上で花巻市立亀ヶ森保育園の経緯についての説明を終わります。よろしく願いいたします。

岩間総合政策部長

説明が終わりました。そのことにつきましてご質問等ございましたら、挙手でお願いいたします。

佐々木精一議員。

佐々木精一議員

今説明を聞かせていただきました。そうするとですね、大迫地域っていうのは、大迫保育園、そして、大迫小学校で、大迫中学校っていう形で、1つ、1つ、1つって形になるんですね。そういう形で、どんどん縮小の傾向になって、寂しい思いをしていますのと、この間、亀ヶ森小学校も閉校になって大迫小学校に合併したところ。やむを得ないっていう意見もあります。しかし、亀ヶ森地域は、ものすごく教育意識も高く、自治意識も高く、やっぱりこの大迫の中でも、強い意志を持っているっていうか、独特な文化意識を持っているとこなんですね。そういうところがこうやってどんどん、どんどん無くなっていくことに関し、大迫の地域は、本当に希望が無くなっていくっていうか、なんか段々縮小になってくという流れの中で、小中一貫のような話とかはないでしょうか。

岩間総合政策部長

小中一貫校を今後大迫に設置する考えはないかというご質問でよろしいですか。

佐々木精一議員

私たちは、保育園から全部1校になってしまったんですよ。ですから、この保育園のこととかも踏まえて、希望がなくなってしまうんで、そこは、これもやむを得ないことかもしれないけれども、そこを踏まえた上で、そういった話し合いとかはないのかっていうことです。

岩間総合政策部長

佐藤教育長。

佐藤教育長

ありがとうございます。今回の保育園の閉園について、私ども、やっぱり地域の保育を保障しなければいけないという、そういったスタンスもございましたし、ただ一方で、子供たちがどんどんどんどん減少する中で、保育園の日常の遊び、あるいは保育環境、そういったことから考えて懇談を重ねてきたということです。正直なところで言うと、おそらくもっと時間をかけてというところで私たちも考えておりましたけれども、懇談を重ねるうちに、保護者の方から申し出がございましたので、それを受けて対応させていただいた背景になります。議員おっしゃるように、大迫の中心部を含めて4地域、それぞれ古い伝統がございます。で、例えばこの亀ヶ森保育園は、大迫で1番最初に、昭和34年に設置された保育園でありますし、地域のご協力とかいただきながら、これまでも、小規模ながら特性のある、しっかりした保育をやってきたと、そういったことは、重々、承知しておりますので、そのことも踏まえて、保護者の方とお話をしてきたところでございます。もちろん、地域との懇談会の中でも、その地域で支える保育ということについて、色々、ご意

見もございました。当然、今度閉園して統合するわけですがけれども、そういった場合に、亀ヶ森の子どもたち、外川目の子どもたち、内川目の子どもたち、大迫の子どもたちをどういったふうに、保育あるいは地域等の連携を生かしていくかについて、これからの議題になるかと思えます。で、同じようなことは、小学校の統合におきましても、あるいはかつての外川目保育園の統合、内川目保育園の統合とも同じような議題になりました。実際、今、小学校が統合したわけですがけれども、やはりそういったことを生かしながら、例えば、小学校でも郷土芸能でさんさをやらせていただくとか、あるいは、地域協議会の中でいろんな地域との連携を図るとか、そういうことはしておりますので、当然これからの保育運営でもそれは進めていかなければならないだろうと思えます。小中学校の今後ということがありましたけれども、私もかつて中学校の校長をやっていた当時、そういったことを提言したことがございますが、それはちょっと形にはなりません。しかしながら、こういった保・幼・小・中の一貫性が見えてきた中で、やっぱり連携ということは非常に大事ですし、実際やっている部分もありますので、その辺については、学校運営を図りながら、これからもっともっと充実した運営にしていかなければならない、もちろん高校も含めてという形になるのですけれども、様々ご意見いただきながら充実を図っていきたいと考えております。

岩間総合政策部長

その他ございますでしょうか。

照井明子議員。

照井明子議員

保護者会の説明の経過を見ますと、令和5年6月15日に行われたアンケート調査は全世帯が参加して、最終的に令和5年11月の保護者会は7世帯の方が参加し、3世帯の方々はどうして参加しなかったのかなってというふうに、ちょっと心配はしているんです。保護者会の方々の中で、例えば、この地域から大迫保育園に行くと、職場に通う関係上、非常に時間がかかるとか、不利益になるとかっていうような世帯はいらっしゃらなかったのか、亀ヶ森保育園の子供さんは、大迫保育園の入園予定でいいというふうに理解してよろしいのか確認したいと思えます。

大川こども課長

まず11月1日の懇談会についてですがけれども、参加したのは7世帯、その内訳なんですけども、来年度も継続して保育所を利用する予定の世帯が6世帯、それから、3月で卒園する世帯1世帯という参加状況でございました。残る3世帯も、全て卒園児のみの世帯でございました。お話を聞いたところ、年長児のみのご家庭は、来年度以降も保育所を継続して使うご家庭のご意見を優先して考えていただきたいということで、最後のこの懇談会の方には欠席しますということで連絡があったというふうに伺っております。

通勤に関してですが、通勤先と反対方向になってしまうというようなご家庭は、やはり、ございました。懇談会を始めた当初から、これからちょっと通勤に時間がかかるなどというご心配も当然ありまして、そのことについても、様々皆さんからご意見を伺ったところで

す。

懇談を続けていく中で、保育園は学区というものがございませんので、職場の近くというふうを考える場合は、当然その希望される園の方に転園ということも可能だというご説明を申し上げて、お話し合いをしていただいていたところなんですけれども、最終的に、皆さん話し合っ、子供たちがせつかく今、亀ヶ森保育園で仲良く過ごしているのに、親の通勤の都合で、1人だけ別の園にというのはやはりちょっと考えられないなということで、最終的に保護者さんがみんな揃って大迫とするのであれば、大迫保育園の方に転園したいというふうなお話をいただいたところです。現在、来年度の4月入所の調整を行っているところなんですけれども、亀ヶ森保育園の子どもたちにつきましては、全員大迫保育園への入所調整が可能な状態でしたので、全員揃って大迫保育園に入所する予定となっております。

照井明子議員

それと、保育士の件です。保育士は、現在、何名ぐらい働かれていますのか。貴重な存在です。私は、会計年度任用職員にしても、引き続き市で働いていただきたいというふうに思っておりますし、園では、多分、発達障害のお子様も増えていて、加配も欲しいほど大変な状況にあると思うので、公立としてですね、そうしたところに手厚く対処するという役割を実践してほしいんです。そういった意味では、ご本人のご希望はもちろん第一ですけれども、保育士を減らさずにしっかりと確保して継続して働いていただけるような、そういう取り組みをしていくべきだというふうに思っておりますが、ご所見をお願いします。

大川こども課長

亀ヶ森保育園の職員ですけれども、現在、正職員の保育士が3名、それから会計年度任用職員1名のほか、園務員とかパートの保育補助などで、全部で10名程度の職員となっております。正職員につきましては、4月の人事異動で他の公立保育園の方に異動することになりますけれども、亀ヶ森保育園の子どもたちが、少しでも早く大迫保育園の方に馴染んでもらうように、保育士の配置については、亀ヶ森保育園の保育士は大迫の方に異動するような形で現在考えております。

パートですとか会計年度の職員につきましても、ご希望を伺ったところ、できれば継続して働いていきたいというご希望を伺っておりますので、他の公立保育園の方で、働いていただくようお願いするような形で考えておりました。

岩間総合政策部長

桜井肇議員。

桜井肇議員

こういう話が出るたびに切ない思いがする訳ですが、この6月時点で10世帯全部からアンケートをいただいたということで、その中では、亀ヶ森保育園の存続を望むという方が4世帯ということでありました。この4世帯というのは、引き続き在園するという方々ですね、多分。まずそれ確認します。

岩間総合政策部長

大川こども課長

大川こども課長

存続を望むと回答した4世帯のうち、来年度も継続して保育園を利用する予定のご家庭は2世帯で残る2世帯が、卒園児のみの家庭という状況でございました。

桜井肇議員

その後、保護者だけで話し合ったり、教育委員会と懇談したり、あるいは大迫保育園と交流したりということのようですが、この6月のアンケート調査に対する回答以降、存続を望むという、今も望むというふうに考えておられるようですか。

大川こども課長

皆さん、やはり亀ヶ森保育園を残してほしいという気持ちは今でもお持ちだというふうには思っております。説明で申し上げました通り、子供の育ちということ考えた時に、なるべく多くのお友達と一緒に楽しく過ごしてほしいですとか、触れ合いですとか、様々な経験を重ねることがやはり大事なんじゃないかなというふうに、9月の保育交流の様子も色々紹介して、懇談した中でそういったご意見が出ておりましたので、最終的には、保護者さん方で閉園という苦渋の決断に至ったものというふうにこちらとしては捉えているところでした。

岩間総合政策部長

その他ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日2つ目の説明事項となりました公立保育園「亀ヶ森保育園」の閉園について説明を終わらせていただきます。